

珪藻土配合たたき風床仕上材

たたきくん



施工要領書

2025年6月13日



二瀬窯業株式会社

施工関連資材

- たたきくん（珪藻土配合たたき風床仕上材）



内容量	15kg
仕上げ厚さ	約 8mm
標準施工面積	約 1 m ² /袋
標準加水量	水道水：1.8～2.0L/袋

- 丸石パック



内容量	0.2kg
散布量	たたきくん 1 袋につき 0.2kg

- たたきくん下塗材（専用下塗材）



内容量	25kg
仕上げ厚さ	2mm
標準施工面積	約 10 m ²
標準加水量	約 4.5L/袋

- ユニレックス 3（吸水調整材）



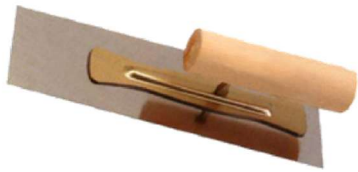
内容量	1kg
標準施工面積	約 33 m ² /本（水道水で 5 倍に希釈して使用） （5 倍希釈液：約 150g/m ² ）

- P-VII（ピーセブン）（浸透性硬化材）



内容量	2kg
標準施工面積	約 8～10 m ² （原液塗布：200～250g/m ² ）

施工に必要な道具



金ゴテ



木ゴテ



左官刷毛



スポンジ

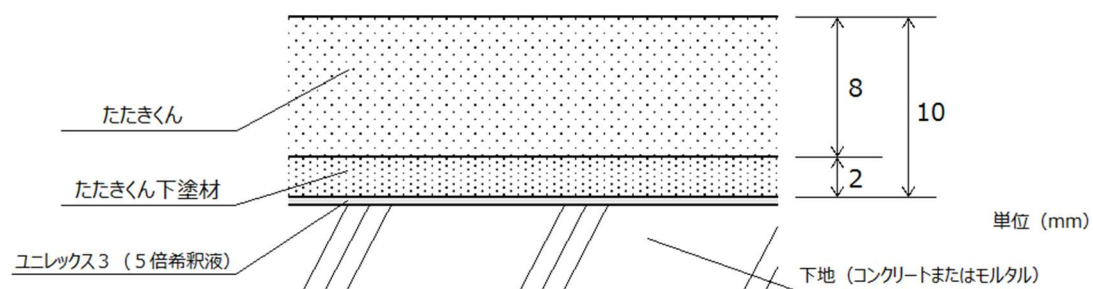


スポンジ下駄

施工前の注意点

- 車の乗り入れる場所は、割れ、削れの恐れがありますので、使用しないで下さい。
- 常時、水掛かりがある場所は、コケが生えてくる恐れがあります。
- 階段など出隅部分は、角が欠ける場合があります。
- 駐輪場など自転車が乗り入れる場所において、自転車のスタンドが常時当たる部分は削れや欠けなどの恐れがあります。
- 椅子等で同じ場所ばかり引きずると、削れる恐れがあります。
- 油污れ等の染み込む汚れは、除去しにくくなる場合があります。
- 気温が5℃以下及び5℃以下になりそうな時は、施工を行わないで下さい。
- 下地を十分に乾燥させた後、施工を行って下さい。
- コンクリート及びモルタル以外の下地には、施工を行わないで下さい。

たたきくん施工断面図



図：たたきくん 施工断面図

1. 下地処理

1-1. コンクリート下地への施工

- ・ コンクリート打設後、2 週間以上養生して下さい。養生期間が短いと、たたきくん施工後、色ムラやひび割れ等の恐れがありますので、必ず下地は十分に養生してください。
- ・ レイタンスや油類等が表面に付着している場合は、高圧洗浄機などを使用してこれを除去し、清掃を行って下さい。
- ・ コンクリートの極端な凸部や脆弱部分は、サンダー等で除去し、必要なら補強を施して下さい。
- ・ 極端な段違い部や凹部は、ポリマーセメントモルタル（ベース#40 など）を充填して補修して下さい。
- ・ 鉄筋が見えている場合には、必ず錆止め剤を施して下さい。
- ・ 大きなクラックは、Vカットしてポリマーセメントモルタル（ベース#40 など）を充填して補修して下さい。
- ・ 施工前日に降雪雨や夜露などの可能性がある場合、施工面が濡れないようにシート養生を行ってください。

1-2. モルタル下地への施工

- ・ たたきくん下塗材をよく密着させるため、下地のモルタルは木ゴテで表面を仕上げて下さい。
- ・ モルタル塗り付け後、1 週間以上養生して下さい。養生期間が短いと、たたきくん施工後、色ムラやひび割れ等の恐れがありますので、必ず下地は十分に乾燥させて下さい。
- ・ 施工前日に降雪雨や夜露などの可能性がある場合、施工面が濡れないようにシート養生を行って下さい。

コンクリート及びモルタル以外の下地のときには施工を行なわないようにして下さい。

2. 伸縮目地の設置

2-1. 伸縮目地の設置箇所

- ・ 伸縮目地の設置間隔は約 3 m おきに（目安としては、目地で囲まれた面積が約 10 m² 以内）、また、コンクリートのひび割れ誘発目地の位置に設けるようにして下さい。

2-2. 伸縮目地の設置方法

I. 埋め込み目地（真鍮目地 等）を使用する場合

- (1) 真鍮目地棒をしっかりと固定して下さい。
- (2) その後、たたきくんの施工を行って下さい。
- (3) 真鍮目地棒は、幅 5 mm 程度のものの使用をお勧めします。

II. 目地棒除去後、たたきくんで埋め戻す場合

- (1) 目地棒の取り付け
たたきくん下塗材などで、目地棒を取り付けて下さい。目地棒は、発泡目地を使用することをお勧めします。
- (2) たたきくん施工
目地棒を取り付けた翌日、たたきくんの施工を行って下さい。
- (3) たたきくん埋め戻し
目地棒を取り除いた後、目地部分に篩って荒い骨材を取り除いたたたきくんを塗り付けて下さい。
※ 深目地にするか、面一にするかは、各現場でご判断下さい。

3. 下地の清掃

- ・ 塵や粉塵などは、掃除機やブロアー等で十分に除去して下さい。

4. 吸水調整

- ・ 左官刷毛等を使用し、施工面全面にユニレックス 3 の 5 倍希釈液にて、吸水調整を行なって下さい。
- ・ 吸水調整材を塗布した下地表面が完全に乾いて透明になってから、次の工程に進んで下さい。目安としては、2～4 時間です（気象条件、下地の状況などにより異なります）。

5. たたきくん下塗材の塗付

5-1. たたきくん下塗材の混練

- ・ たたきくん下塗材に規定量の水道水（4.5 L／袋）を加え、モルタル用攪拌機等を使用し十分に混練して下さい（標準施工面積：約 10 m²）。

5-2. たたきくん下塗材の塗付

- ・ 吸水調整の完了した下地に、たたきくん下塗材を十分にコテ圧をかけてしごき塗りを行い、追っかけてすぐに、2 mm 程度の厚みまで塗り付けて下さい。
- ・ たたきくん下塗材を触って指に付く間に、たたきくんの塗付を行って下さい。目安としては、たたきくん下塗材施工後、30 分以内です。（気象条件、下地の状況により異なります）

6. たたきくんの混練

- ・ たたきくんに規定量の水道水（1. 8～2. 0 L／袋）を加え、モルタル用攪拌機等を用いて十分に混練してください。
- ・ 5分程度練り置き後、練り返して使用して下さい。
- ・ 練り混ぜ水は、きれいな上水道水とし、台秤または計量カップを使用して計量して下さい。
- ・ 施工軟度の目安としては、バサモルタルより少し軟らかい程度です。
- ・ 同一現場においての練り水は、はじめに決めた水量で継続して計量して下さい。施工の途中で練り水量が変わると、色ムラなどの原因となります。
- ・ 練り水量が多いと、耐摩耗性の低下やひび割れなどの原因となります。また、仕上がりまでの時間が長くなりますので、練り水量は厳守して下さい。
- ・ 練り置き時間は20分程度です。また、水を入れての練り返しや練り足しは絶対に避けて下さい。

7. たたきくんの塗付

- ・ たたきくん下塗材を塗り付け後、たたきくん下塗材が乾ききらないうちに追っかけにて、たたきくんを所定の厚み（8mm程度）まで十分にコテ圧を掛けて金ゴテで平滑に塗り付けて下さい。

次工程以降は、直接仕上面には乗らず、スポンジ下駄や敷板を使用して施工してください。また、水を使用するバケツについても敷板の上に載せ、仕上げ面に水がかからないように注意してください。
--

8. 定木ずり

- ・ たたきくん塗り付け後、定木ずりを行い、平滑に整え、木ゴテでよくもみ込んで下さい。

9. 丸石の散布と埋め込み

9-1. 丸石の散布

- ・ たたきくんに湿り気があるうちに、丸石パック（0.2 kg）を散布して下さい。
- ・ 丸石の散布量は、お好みにより調整して下さい。
※ たたきくんが乾燥すると、丸石が馴染み難いので注意して下さい。

9-2. 丸石の埋め込み

- ・ 金ゴテ等を使用して丸石を埋め込み、軽く頭はりを行って下さい。
- ・ 丸石がたたきくんで、少し被る程度まで埋め込んで下さい。

10. スポンジ拭き取り 1回目

- ・ たたきくんの表面の湿り気がなくなってきたら、水を含ませてかたく絞ったスポンジで円を描くようにして表面のノロ分を拭き取って下さい。
- ・ 拭き取り具合で表面の砂目の出し方を調整して下さい。

スポンジの水分が多いと、色むらや白華の原因となります。

11. 砂掃い (1回目)

- ・ 最後に拭き上げた時点から 10～30 分程度経過後、表面に残った砂くずを乾いた左官刷毛等で、軽く取り除いて下さい。
※ 強く掃くと表面が削れてしまいますので、注意して下さい。

12. スポンジ拭き取り 2回目(仕上げ拭き)

- ・ たたきくんの表面の砂くずが乾燥してきたら(砂くずの色が白っぽくなってきます)、水を含ませてかたく絞ったスポンジで同一方向にきれいに拭き取り、砂目を出して仕上げて下さい。

スポンジの水分が多いと、色むらや白華の原因となります。

※ スポンジは常にきれいな面を使用するようにし、こまめに洗ってください。

13. 砂掃い (2回目)

- ・ 表面の砂くずがある程度乾いたら、乾いた左官刷毛等を使用して表面の砂くずを掃いきれいにして下さい。
- ・ 施工翌日にも、同様に砂掃いを行なって下さい。

14. 養生

- ・ たたきくん施工後に降雨雪のおそれがある場合、または、通風・日照の激しいときはシート養生等の保護養生を行って下さい。
- ・ シート等が直接たたきくに触れないように注意して下さい。
- ・ たたきくん施工後、歩行や作業が行われる場合は、敷板等で養生し局部的に力が加わらないようにして下さい。歩行や作業終了後は、ただちに養生を取り除いて下さい。養生したままですと、色ムラのおそれになります。

15. 浸透性硬化材 (P-VII) の塗布

15-1. 事前確認

- ・ P-VII塗布前に、たたきくんが乾燥しているか確認して下さい。乾燥していない状況

でP-VIIを塗布すると、耐磨耗性が低下したり、変色を起こす可能性があります。目安としては、たたきくん施工3日以上経過後、P-VIIを塗布するようにして下さい。ただし、P-VII塗布までの期間は、気象条件などにより異なります。

- ・ 乾いた左官刷毛等を使用して、たたきくん表面の砂くずを掃い、きれいにして下さい。

15-2. 塗布

- ・ P-VIIは希釈せず原液のまま使用して下さい。
- ・ P-VIIはムラのないように左官刷毛等で、しっかりと塗布して下さい(標準塗布量 200～250 g/m²)。塗布直後に乾き色になるような部分は、再度塗布して下さい。
- ・ ローラー等で塗布すると、標準塗布量以下になるおそれがありますので、ご注意ください。
- ・ P-VIIの塗布量が少ないと、色ムラになるおそれがありますので、ご注意下さい。
- ・ P-VIIを2回塗布しないで下さい。
- ・ P-VII塗布後、最低3日以上は降雨などの水掛かりに注意して養生して下さい。なお、たたきくに直接触れないように養生して下さい。P-VIIが乾燥する前に水掛かりがあると変色する可能性があります。養生期間は気象条件などにより異なります。

注意事項

- ・ 気温が5℃以下及び5℃以下になりそうな時は原則として施工を行わないで下さい。
- ・ 車が乗り入れる場所や特に湿気の多い場所への施工は避けて下さい。
- ・ 練り混ぜに使用する水は、水道水を使用してください。
- ・ モルタル用攪拌機の羽根は、アルミ製のものは使用しないでください。
- ・ たたきくん及びたたきくん下塗材はアルカリ性のためチリ廻りや幅木、サッシ等の養生は確実に行って下さい(変色の恐れがあります)。
- ・ 色違いや段差ができないように、縁を切らずに連続して施工して下さい。
- ・ たたきくんは天然素材を使用しているため施工時の季節や天候、製造ロット等の条件により色合いが多少異なる場合があります。
- ・ たたきくん及びたたきくん下塗材の保管は、直射日光、湿気を避け、パレット等で地面から離して保管して下さい。
- ・ 開封した製品は、その日のうちにご使用ください。
- ・ 製品のご使用に際しては、防塵マスク、防塵眼鏡、保護手袋など着用の上、適切な安全対策を実施して下さい。
- ・ 指定した材料以外を混入しないでください。